

ネパール地震災害への 赤十字の対応について

2015年5月



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

プレゼンテーションについて

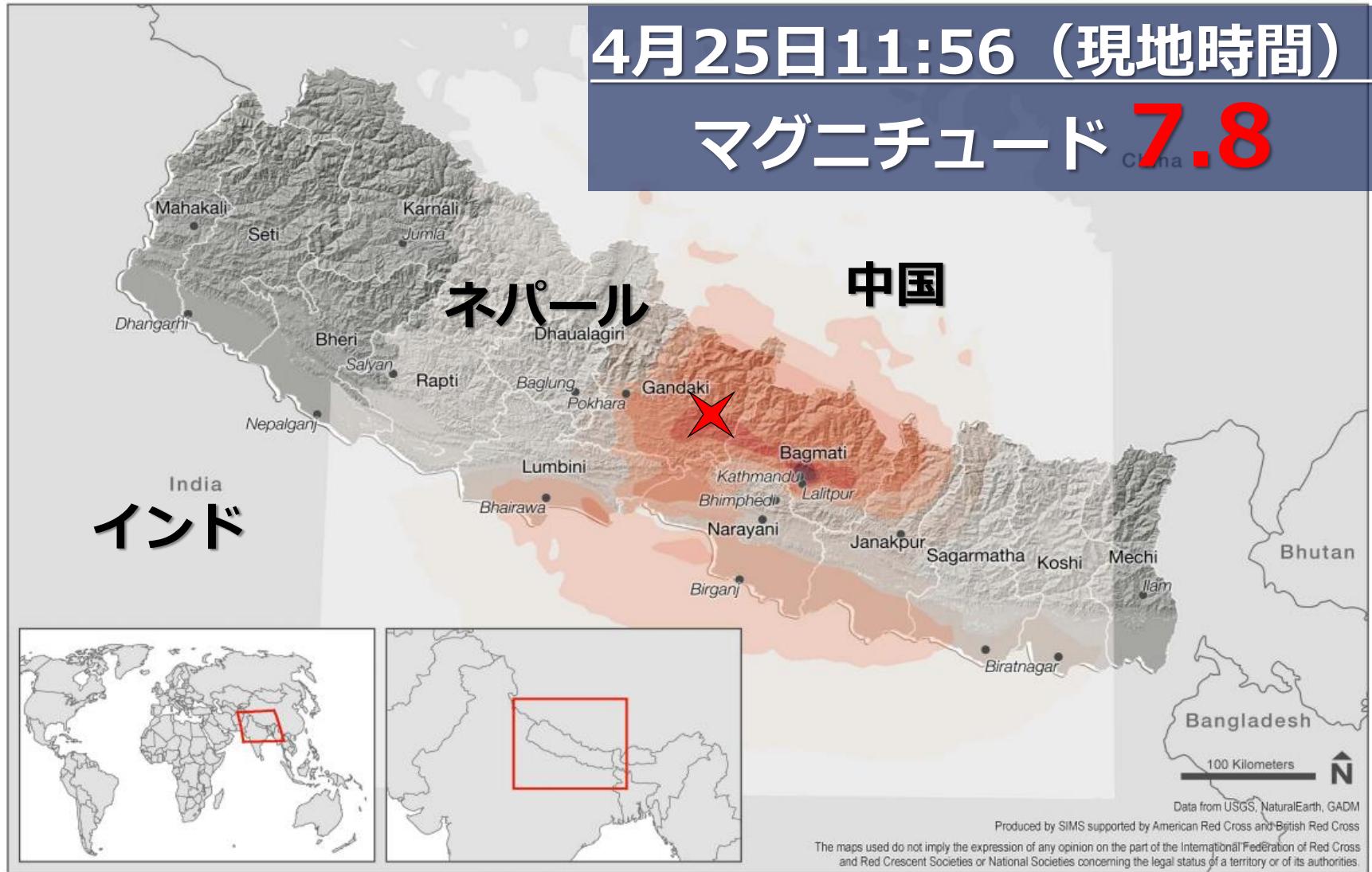
- 
- ・今回のネパール地震災害の概要
 - ・現地医療班活動報告
 - ・今後の支援について



© IFRC

地震の発生と被災地域

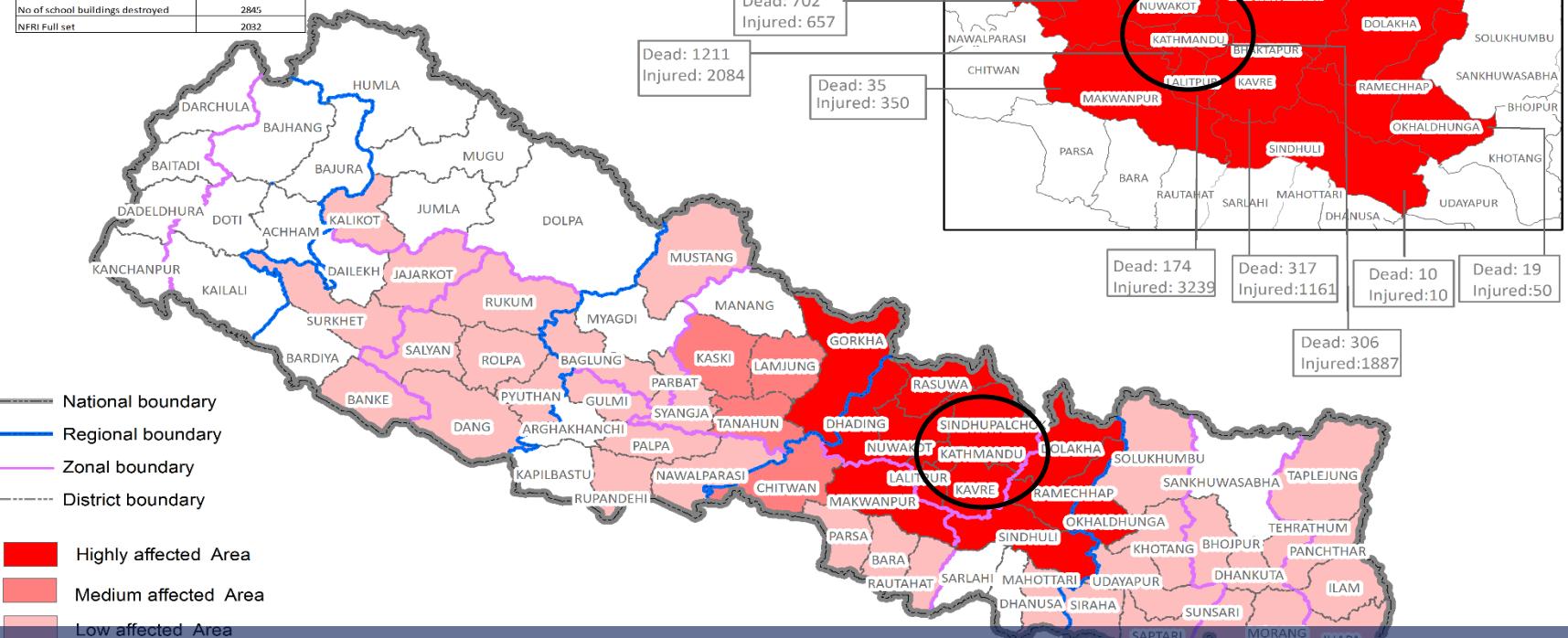
4月25日11:56 (現地時間)
マグニチュード **7.8**



地震の発生と被災地域

Earthquake affected Districts

Details	Figures
No of Affected VDC	1035
No of Affected Municipalities	60
Dead	7696
Missing	452
Injured	16727
Affected Families	1091019
Displaced Families	645798
Fully Damaged HHs	502708
Partially Damaged HHs	272087
No of school buildings destroyed	2845
NFRI Full set	2032





レンガ造りの建物が多数倒壊



人的被害



犠牲者 (ネパール) 7,759人 負傷者 16,434人
(5月7日政府発表)

© IFRC

家屋損壊



全壊 30万棟 半壊 27万棟

(5月7日政府発表)

© IFRC



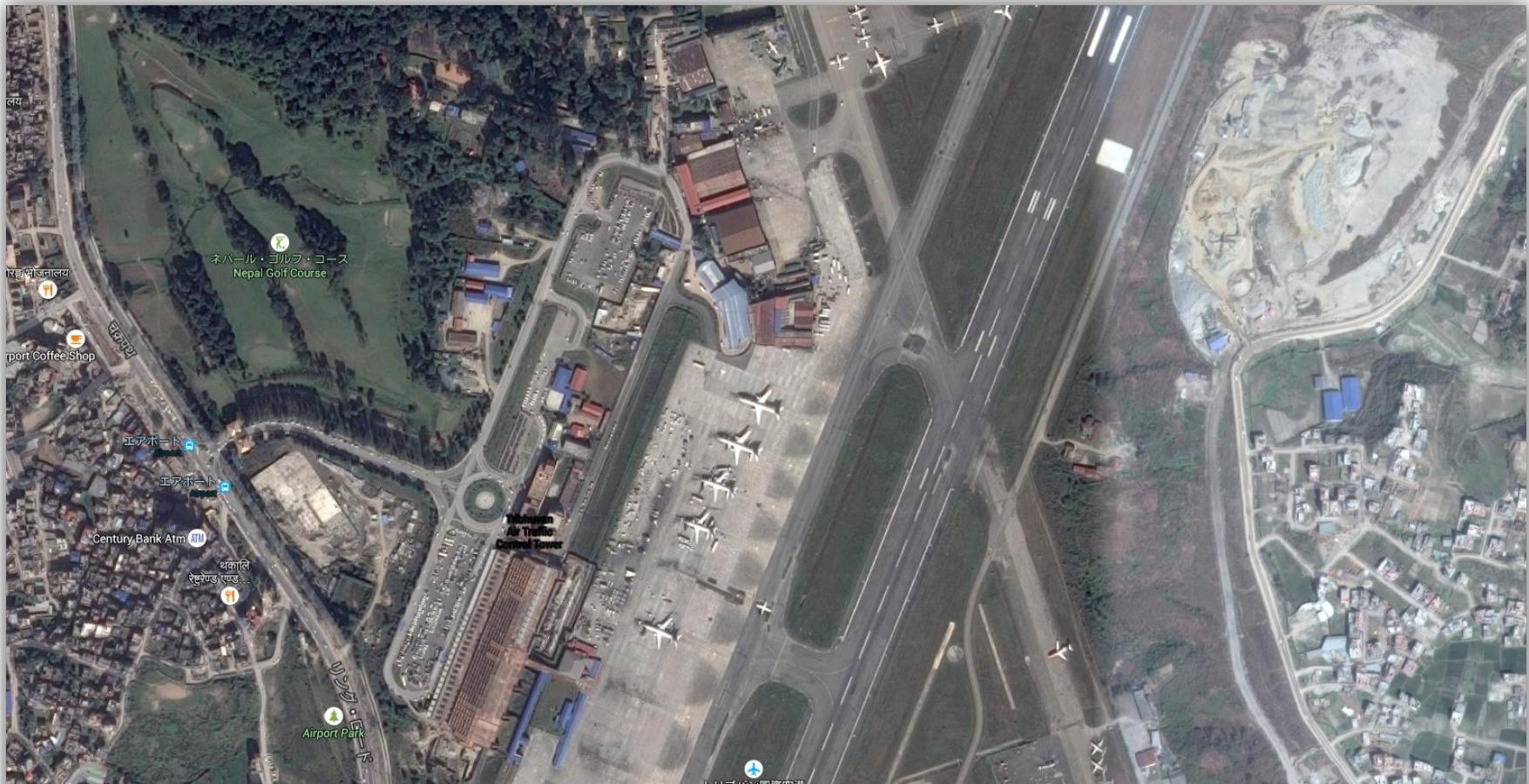
©Alana Torralba - IFRC

山間部の調査救援活動が阻まれる



山岳地帯のため崖崩れで道路が寸断

緊急物資等の迅速投入が著しく困難



小さな国際空港のため人員・物資が大渋滞

© Google

ネパール赤十字社の緊急対応



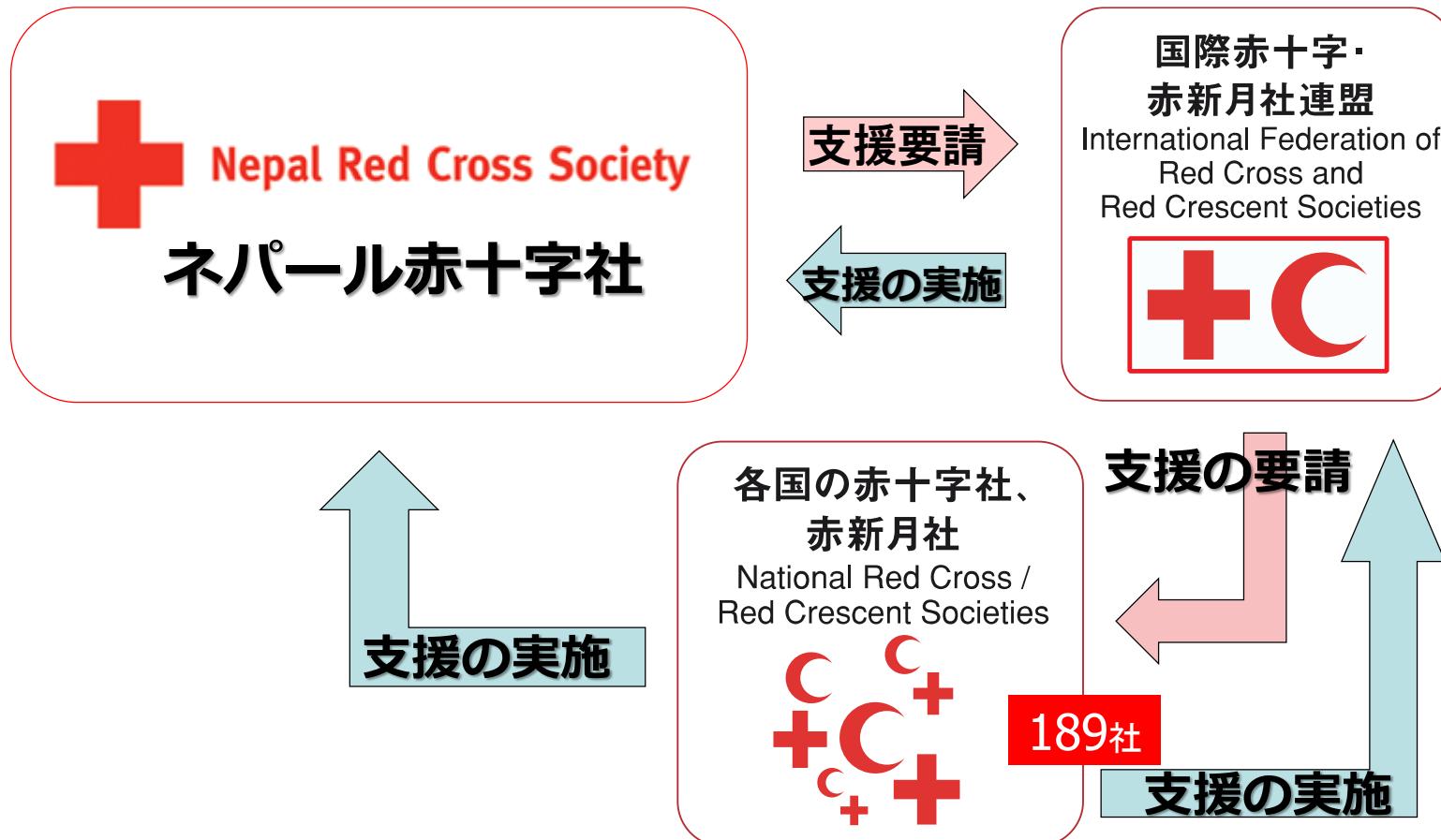
- ・国内ボランティア2,200人を動員して救護活動
- ・救援物資を各地に配布

内訳) ビニールシートまたはテント 34,400枚、
毛布 8,900枚、洗剤など衛生キット 3,200セット、
ORS(経口補水塩) 118,900 タブレット、等

- ・国際赤十字・赤新月社連盟を通じ、国際援助を要請

© IFRC

国際赤十字の支援調整（標準）



「連盟」が国際支援調整を行う

各国赤十字社からの救援

 International Federation
of Red Cross and Red Crescent Societies



24カ国250人以上の赤十字要員が集結

Created by SIMS supported by American Red Cross and British Red Cross.
The maps used do not imply the expression of any opinion on the part of the International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies or National Societies concerning the legal status of a territory or of its authorities.

日本赤十字社の救援



日本赤十字社の救援

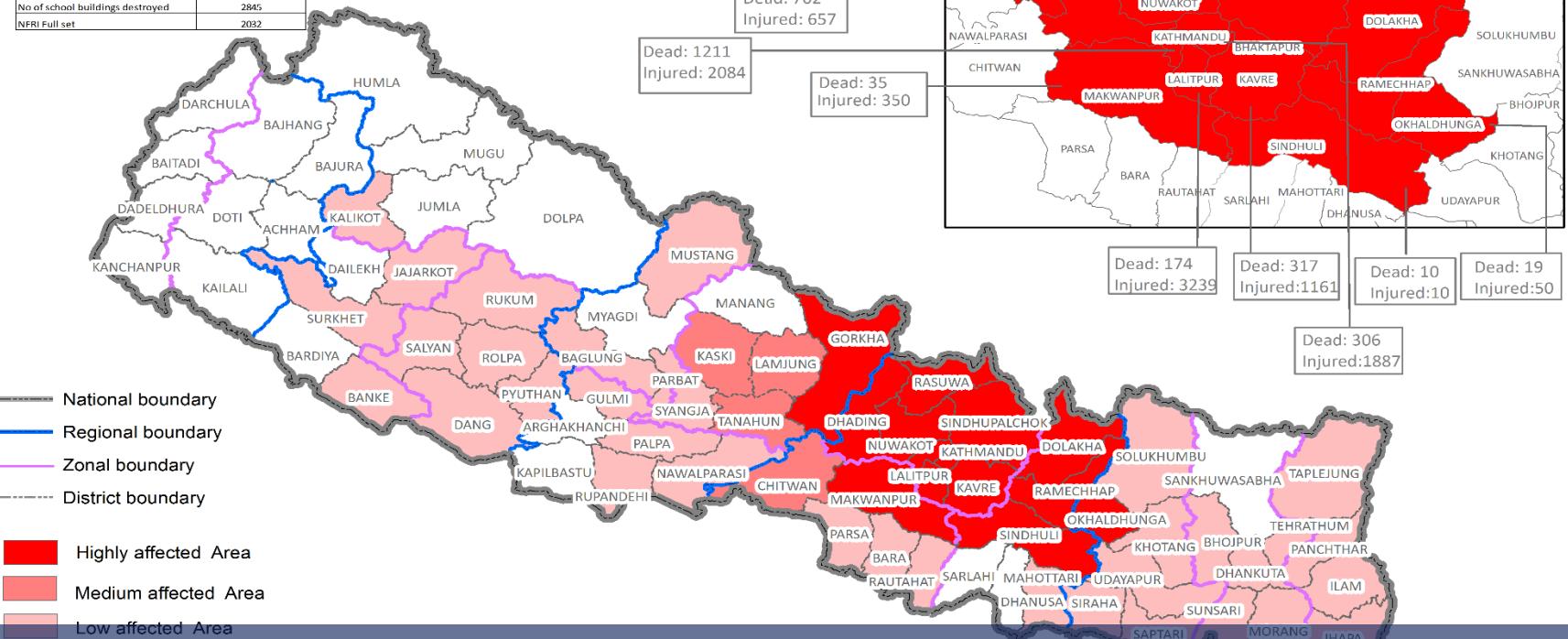
4月25日	地震発生 （現地時間11:56、日本時間15:11） 同日夜、先遣隊先行職員1人を派遣
26日	先遣隊4人を派遣（医師1・看護師2・事務1）
27日	カトマンズの保健分野調整会議（ヘルス・クラスター） で、ネパール保健省より国際赤十字に対し、被害の大きかったシンデュルパルチョーク郡メラムチ村等での医療支援を要請される
28日	先遣隊員先行職員現地入り
29日	先遣隊全員が合流、 診療を開始
30日	医療班本隊派遣（医師3・看護師2・薬剤師1・放射線技師1・臨床心理士1・事務管理2・技術2）

発災4日後に山間部の診療所で活動開始

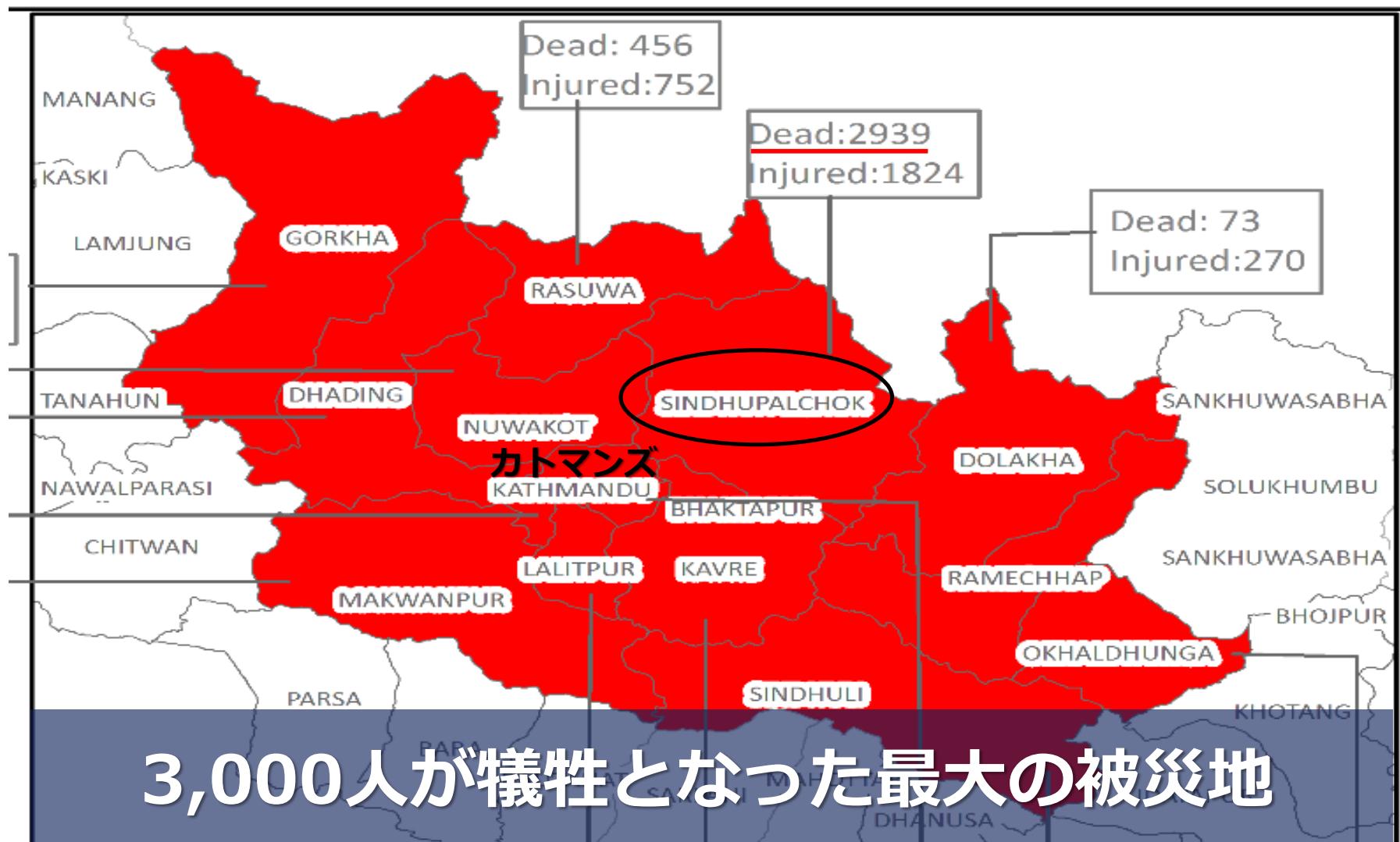
地震の発生と被災地域

Earthquake affected Districts

Details	Figures
No of Affected VDC	1035
No of Affected Municipalities	60
Dead	7696
Missing	452
Injured	16727
Affected Families	1091019
Displaced Families	645798
Fully Damaged HHs	502708
Partially Damaged HHs	272087
No of school buildings destroyed	2845
NFRI Full set	2032



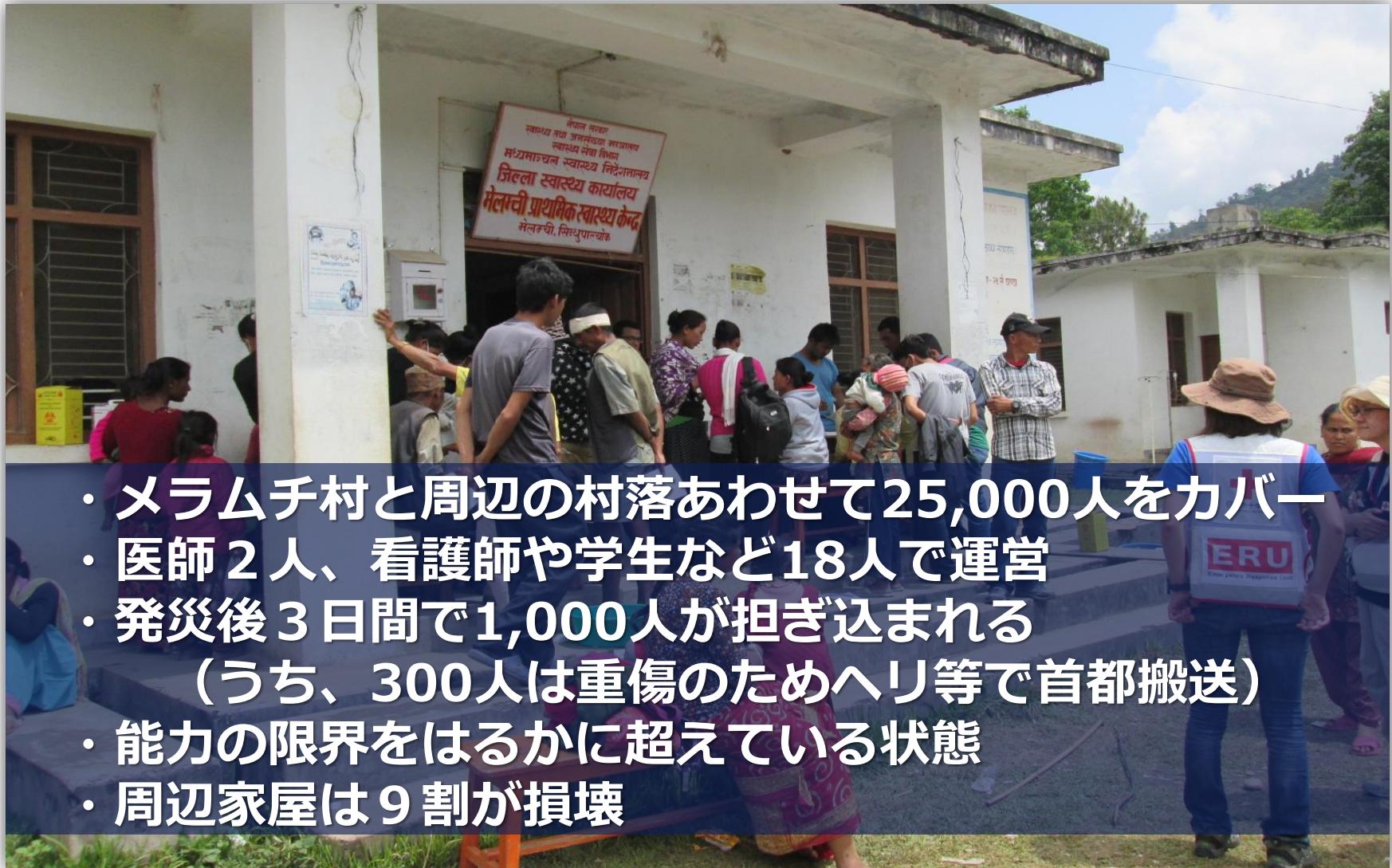
シンデュルパルチョーク郡



メラムチ(Melamchi)村



メラムチ村診療所



- ・メラムチ村と周辺の村落あわせて25,000人をカバー
- ・医師2人、看護師や学生など18人で運営
- ・発災後3日間で1,000人が担ぎ込まれる
(うち、300人は重傷のためヘリ等で首都搬送)
- ・能力の限界をはるかに超えている状態
- ・周辺家屋は9割が損壊

日赤医療班の活動報告



診療所のあるメラムチ村

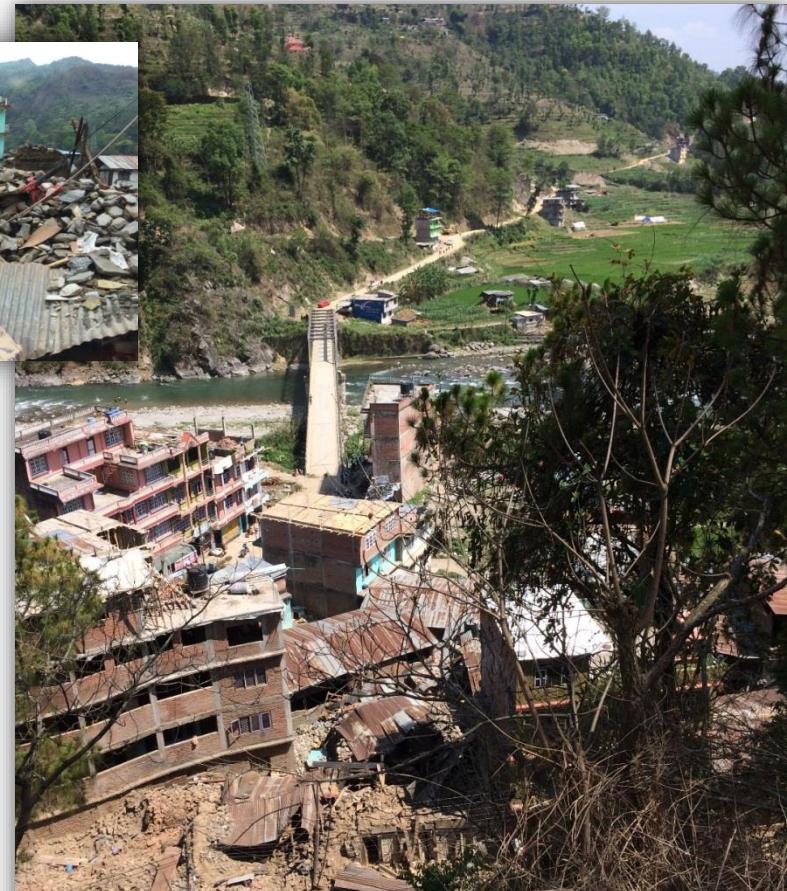


メラムチ村への道路の状況



落石、地割れ、ぬかるみの悪路

メラムチ村の被災状況



建物の9割が損壊

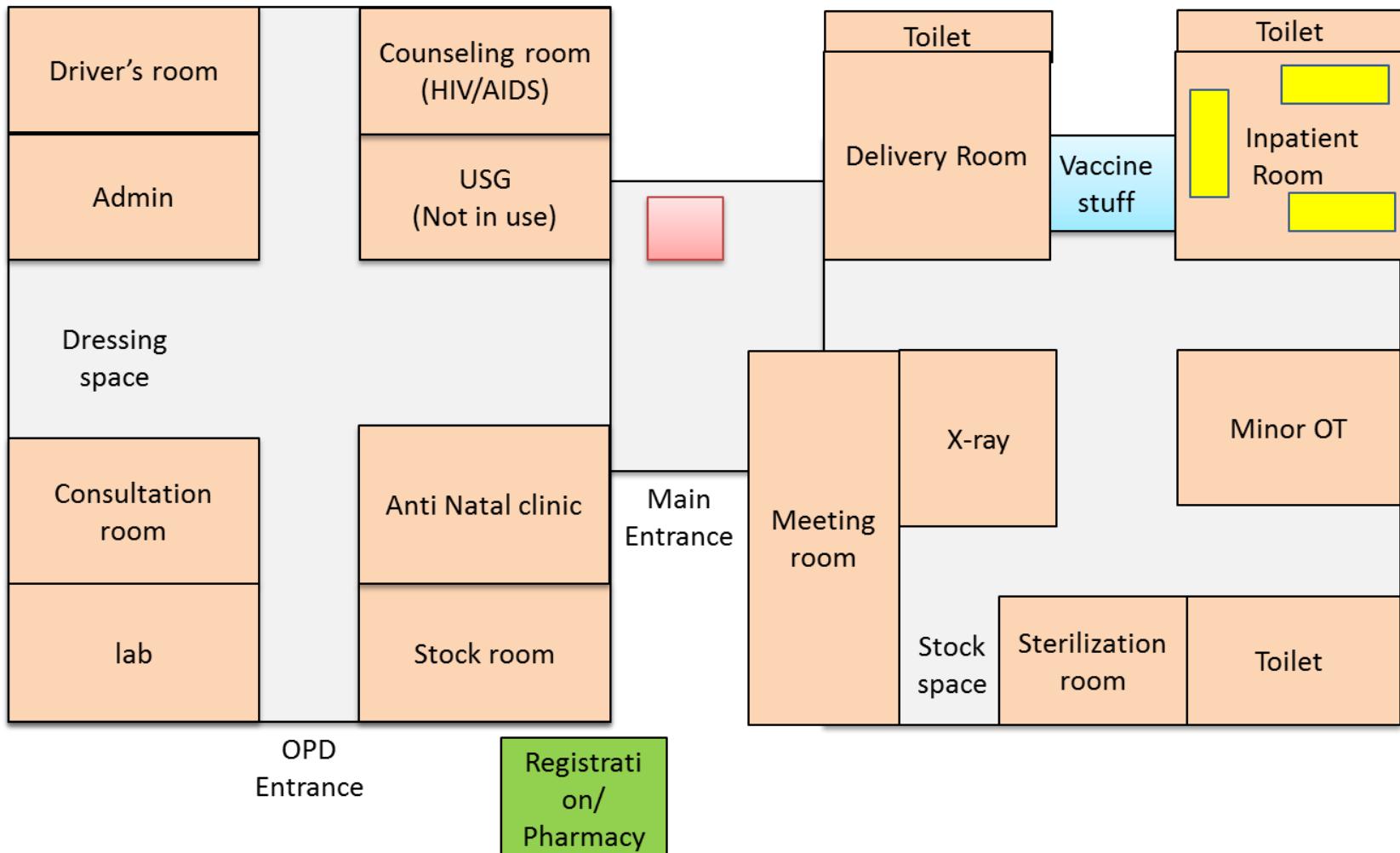
メラムチ村診療所（4月29日）



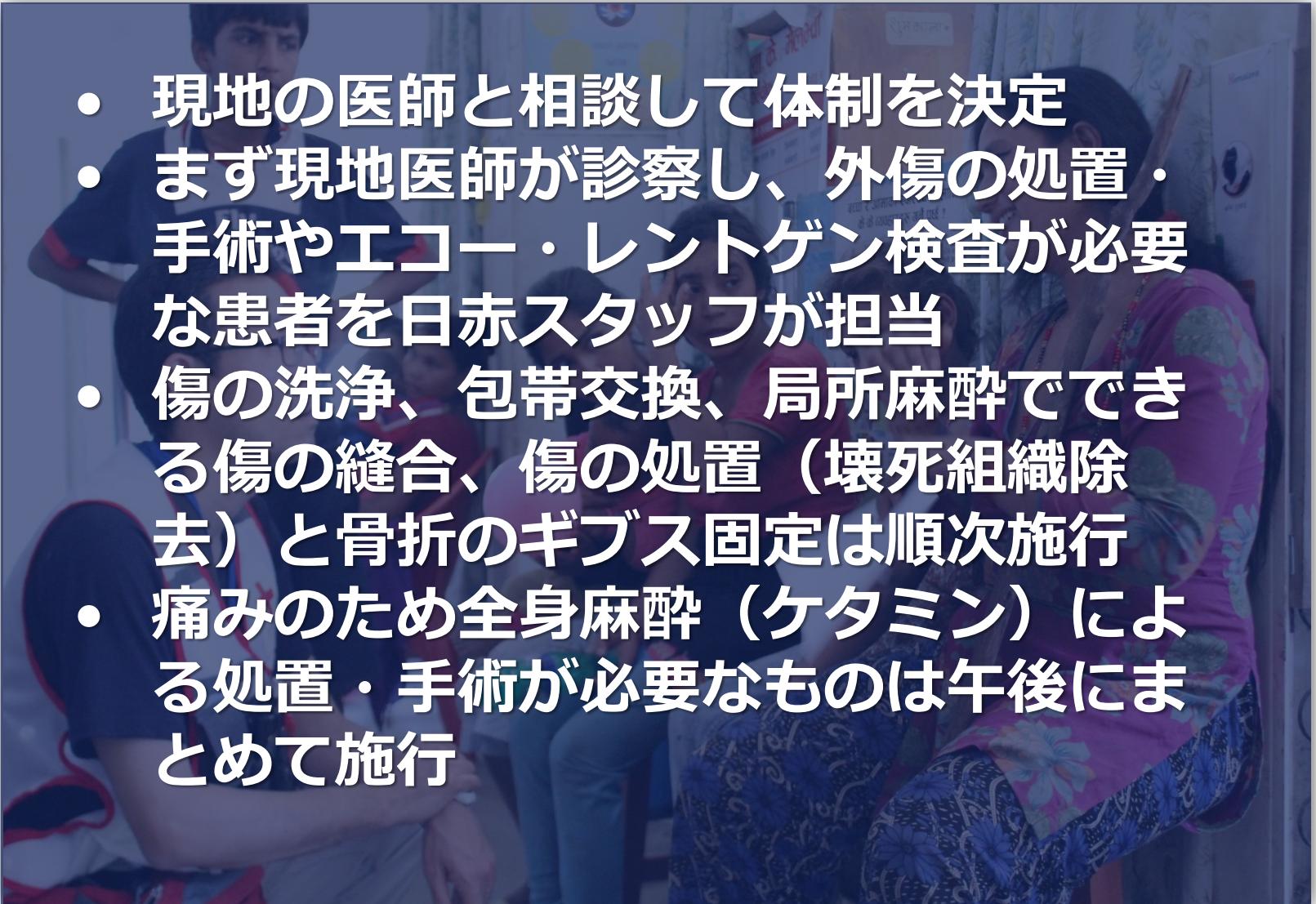
医療班到着時の診療所内部の様子



各部屋を整理して診療開始



診療体制

- 
- 現地の医師と相談して体制を決定
 - まず現地医師が診察し、外傷の処置・手術やエコー・レントゲン検査が必要な患者を日赤スタッフが担当
 - 傷の洗浄、包帯交換、局所麻酔ができる傷の縫合、傷の処置（壊死組織除去）と骨折のギブス固定は順次施行
 - 痛みのため全身麻酔（ケタミン）による処置・手術が必要なものは午後にまとめて施行

受付と薬局



診療を開始

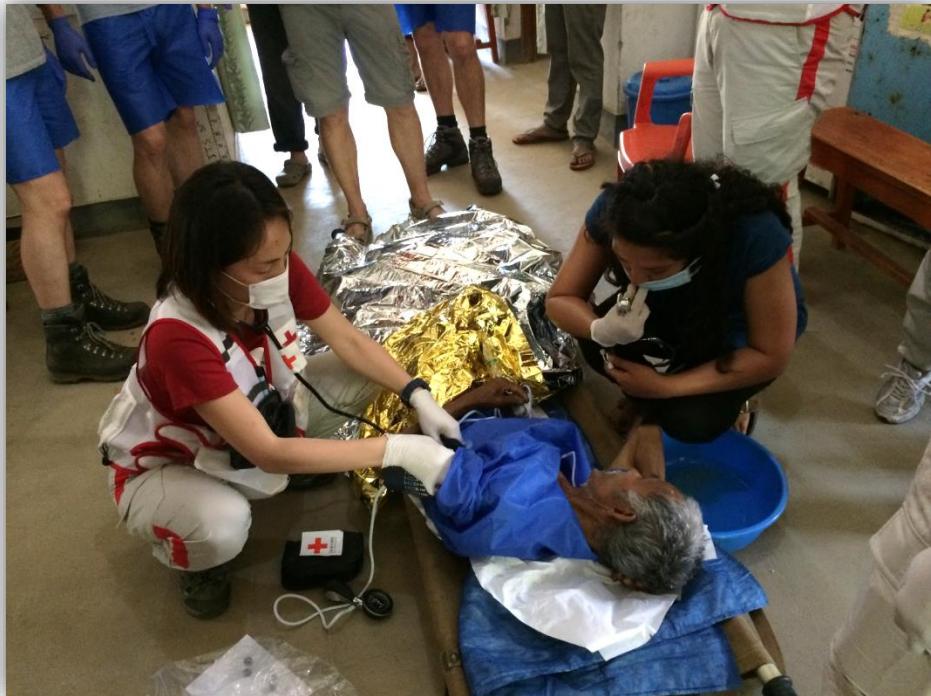








レントゲンとエコーで迅速診断



近隣の外国医療班からも患者を受け入れ

手術を実施



傷病者テントを回診

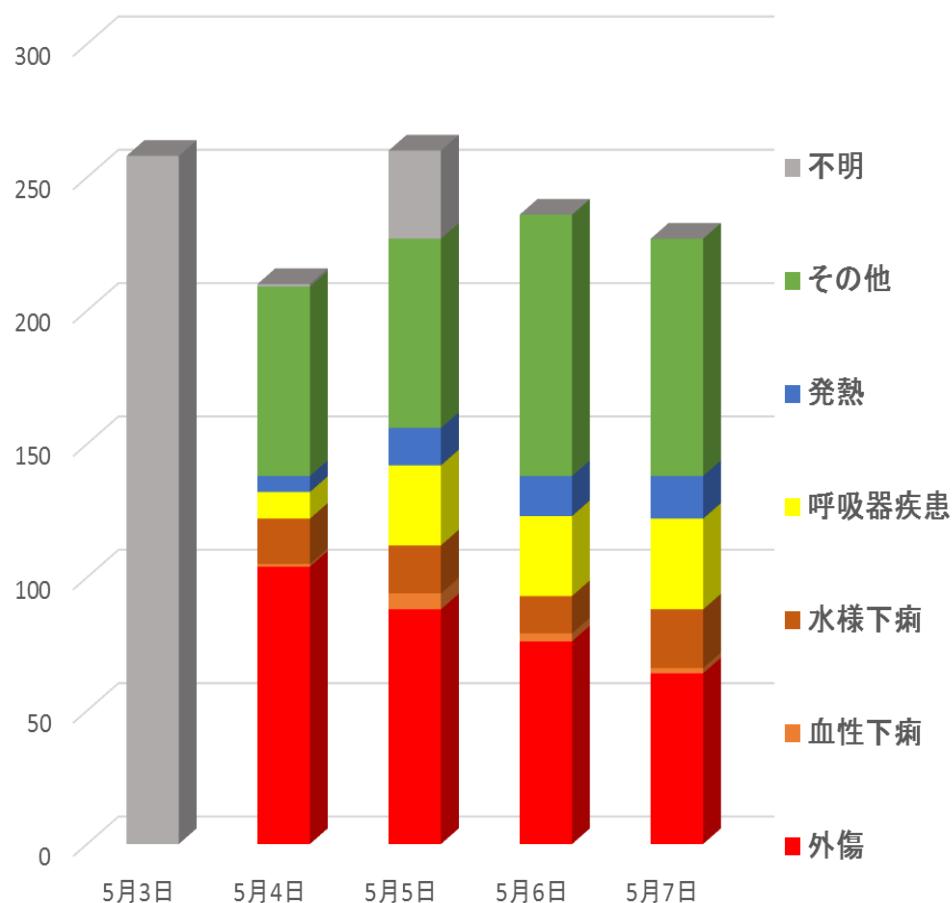


可搬型レントゲンが活躍



診療実績

疾患内訳（5月4～7日）



1日あたり

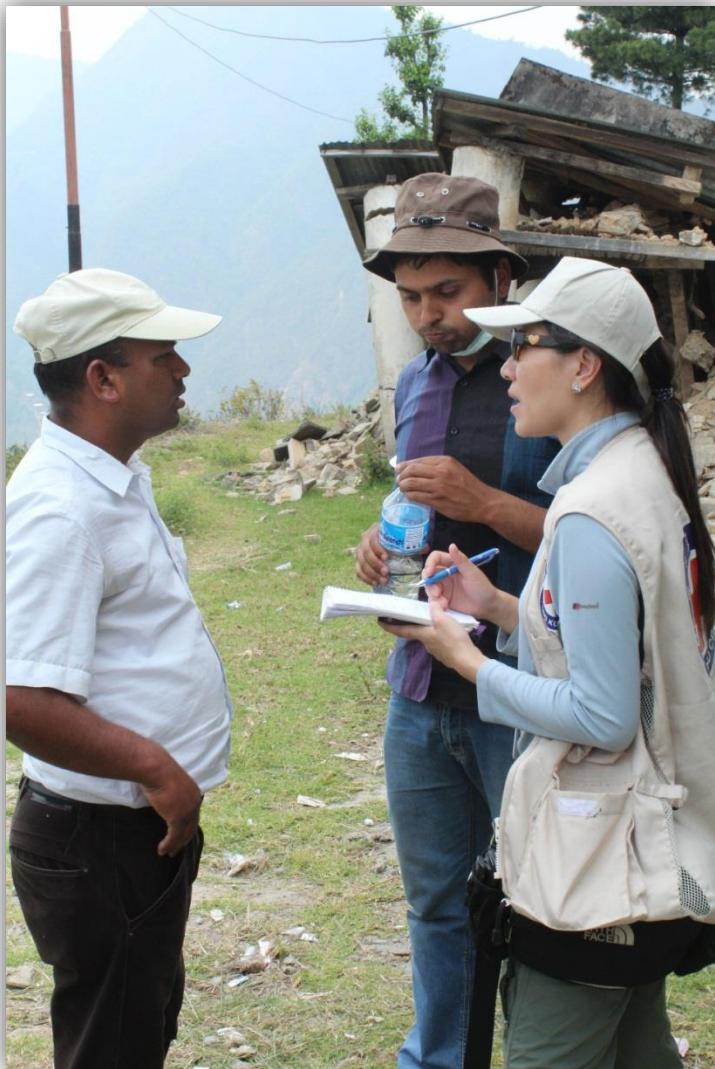
レントゲン検査	10～30人
エコー検査	2～3件
傷の縫合	1～3件
麻酔下創処置	3～5件
骨折ギブス固定	5～10件
全身麻酔下処置	0～3件

こころのケア



多くの被災者がストレスを抱える

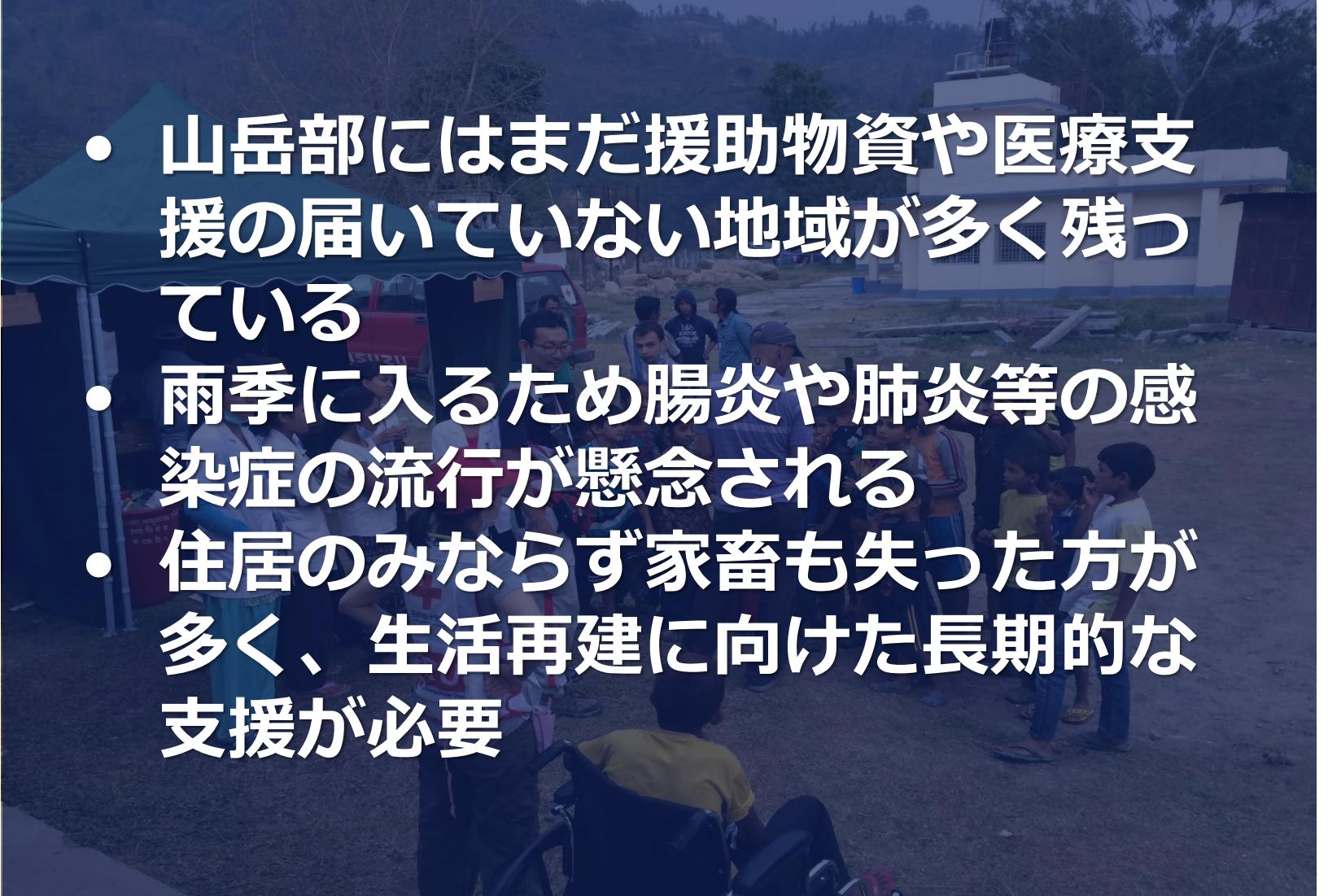
周辺村落への保健衛生指導



周辺奥地の状況調査



今後の課題（医療班現地報告）

- 
- 山岳部にはまだ援助物資や医療支援の届いていない地域が多く残っている
 - 雨季に入るため腸炎や肺炎等の感染症の流行が懸念される
 - 住居のみならず家畜も失った方が多く、生活再建に向けた長期的な支援が必要



日本赤十字社の救援



現地緊急ニーズ（5月9日時点）

- ・テントやビニールシート
- ・安全な水と衛生管理
- ・日用品
- ・医療資材
- ・食糧



国際赤十字の緊急アピール（資金要請）



暫定アピール： 約 41億5,200万円 (倍額に増額予定)

(内容) 保健医療、水と衛生管理、テントなどの
臨時住居、生計支援、家族安否調査等

© IFRC

日本赤十字社の初期支援



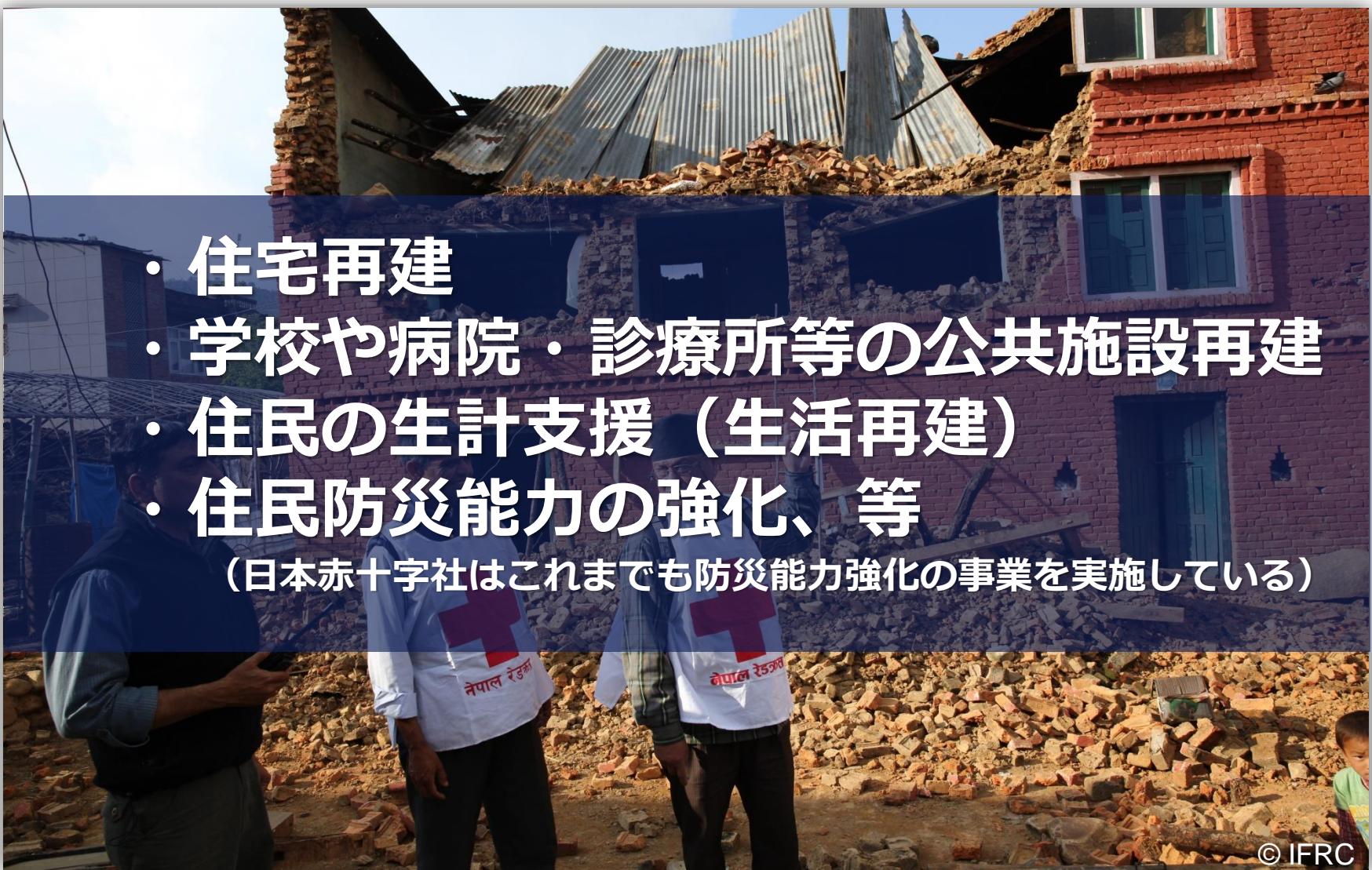
国際赤十字・赤新月社連盟を通じ

緊急救援アピールへの資金援助 : 1,000万円

物資援助（ビニールシートや毛布など）: 4,000万円相当

© IFRC

今後の復興支援の見込み

- 
- ・住宅再建
 - ・学校や病院・診療所等の公共施設再建
 - ・住民の生計支援（生活再建）
 - ・住民防災能力の強化、等

（日本赤十字社はこれまでも防災能力強化の事業を実施している）

© IFRC

海外救援金の募集

1. 受付期間

平成27年4月27日から7月31日まで

2. ご協力方法

- (1) ゆうちょ銀行・郵便局から
- (2) 銀行振込で
- (3) インターネットからお申し込み
- (4) コンビニエンスストアでの受け付け

詳しくは日赤ホームページまで
<http://www.jrc.or.jp/>

日本赤十字社、ネパール赤十字社、国際赤十字・赤新月社連盟が実施する救援・復興活動に充てられます。



人間を救うのは、人間だ。

